

また、学年の途中で他校へ転出した児童・生徒については、調査の対象からのぞいたので、各学年ごとに資料の得られた人数は、次の通りである。

学 年	小1	小2	小3	小4	小5	小6
人 数	203	203	203	203	203	203

学 年	中1	中2	中3
人 数	177	177	177

3. 算数・数学の学力と国語，社会，理科，英語の学力との関連

まず、5教科についてみる。算数・数学とそれをのぞいた4教科（国語，社会，理科，英語）との学力の相関を調べてみる。次の表がそれである。

算数・数学と国語，社会，理科，英語の学力の相関係数

	国 語	社 会	理 科	英 語
小1年	0.8004	0.7924	0.8020	/
小2年	0.8300	0.8123	0.8149	/
小3年	0.7927	0.7666	0.7790	/
小4年	0.7180	0.7195	0.7449	/
小5年	0.7714	0.7540	0.7070	/
小6年	0.7624	0.7572	0.7706	/
中1年	0.7400	0.7446	0.8240	0.7931
中2年	0.7333	0.6955	0.8210	0.7874
中3年	0.7434	0.7520	0.8758	0.8149

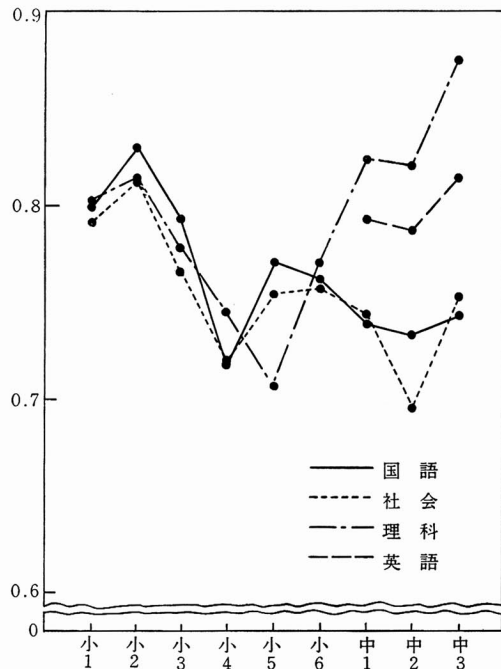
4教科ともその学力は、算数・数学の学力と相当に高い正の相関を示しており、これは、山田、松岡両氏の結果と類似しているが、両氏の相関よりは高くなっている。

基礎教科である国語と算数・数学では、学年が進むにしたがって相関が低くなっているのに対して、比較的広範囲にわたって応用的要素をもつ理科では、小学校6年から中学校にかけて相関が急に高くなり、中学校3年で最も相関の高い教科になっている。

社会は、4教科の中ではいちばん相関の低い教科であるが、算数・数学の学力と知能との相関係数が0.5～0.8（パートの研究では0.55）であるということからみれば、相関の高い教科の一つといえる。

英語については、山田、松岡両氏の論文では「……少なくとも英語を理論を通して学ぶ限り、数学との相関はかなり高い。……近年、耳から学ぶ英語の教育がさかんになってきたので、今後若干は相関が低くなる……」と述べている。この調査対象の生徒は現行の学習指導要領にもとづいて、Hearing や Speaking の面にも相当力を入れて学習してきているが、数学との相関係数は理科に次いで高い数値を示している。

算数・数学と国語，社会，理科，英語の学力の相関の変化



4. 算数・数学の学力と音楽，図工（美術），家庭（技術・家庭），保健体育の学力との関連

次に、残り4教科についてみる。前節と同じように算数・数学の学力と音楽，図工（美術），家庭（技術・家庭），保健体育の学力との相関を各学年別に調べてみる。次の表がそれである。